

# 委員会行政視察報告書

委員会名	空港等まちづくり対策特別委員会
出席委員等	木下 豊和 委員長 大森 和夫 副委員長 河部 優 委員 中尾 広城 委員 小山 広明 委員 谷 外嗣 委員 北出 寧啓 委員 堀口 武視 委員 和気 信子 (副議長)  【随行】藤原 秀紀 (議会事務局)
実施年月日	平成24年4月17日(火)午後1時10分～
視察先	関西国際空港
視察項目	関西国際空港LCC旅客ターミナル等視察・関西国際空港の今後の状況(LCC関連等)説明ならびに意見交換会について
視察結果	
<p>最初に、関西国際空港(株)伊藤誠専務取締役より歓迎の挨拶のち、「関西国際空港の現状と取組みについて」約1時間にわたり説明を受ける。</p> <p>関西国際空港の概要については、2007年8月2日に第2滑走路がオープンし2012年7月には、伊丹空港との経営統合が予定されている。</p> <p>また、我が国唯一の、グローバルスタンダードである「4000m級複数滑走路+完全24時間運用」に適した国際拠点空港を目指している。国際線においては、862便最高となっている。そのうちアジア668便で77.5%であり3/4以上がアジアであり中国においては295便となっている。国内最多の中国のネットワークで就航都市20都市となっている。</p> <p>イスタンブール、トルコを含むヨーロッパ路線6都市に就航し、北米路線においては、中華航空等が就航している。国内線においては、東北、四国、山陽方面がなく減となっている。関西国際空港における国際線就航便数の推移においては、2012年開港以来862便となり開港以来最高となっている。</p> <p>2011年度修正見通しでは、発着回数10.7万回、旅客数は国際線1,003万人、国内線359万人となり、営業利益148億円、経常利益53億円となり8期連続経営黒字となっている。</p> <p>地域社会との共存共栄のため、ヨットレース70艇の参加のもと淡輪から空港島1周のイベントなどおこなっている。</p> <p>更なる成長に向けて、LCCの積極的な誘致、特徴を活かした新たな貨物戦略、中国・アジアからのインバウンドの振興、商業事業収入の拡大、空港アクセスの改善の5つの成長戦略の取組みに重点をおいている。LCCの積極的な誘致を展開している。2012年夏には、8社、11都市就航都なる予定。関西空港においては、国内線を埋めるものとして、LCCを考えている。また、国際線仁川線、香港線、台湾線が就航予定である。</p> <p>関西国際空港は、アジアと欧米をつなぐ中継拠点に位置しており、中継貨物便が増加している。医薬品専用共同定温庫「KIX Medca」など新たな貨物の戦略をおこなっている。関西国際空港の目指す空港像については、アジアと関西を結ぶゲートウェイ空港で、良質な空港アクセスの提供をはじめ日本唯一の「完全24時間国際貨物ハブ空港」である。</p> <p>質疑では、16万回のキャバがあるが、どのように考えるかとの問いに、今は10万回前後であり、待たずにストレスのない運用が適切であるとのことでした。</p> <p>最低13万回でないとい関空の経営が成り立たないといっていたが、どうなのかとの問いに、10万回ではいいとは考えていなく、もちろん多くの回数があれば便利になり、16万</p>	

回発着できる滑走路が整備されているとのことでした。地元市議会としても国に関空のことに関して、多方面より要望を行っている。地元2市1町共存共栄で行う必要があり、もっと関空としても主体性を持ち、アクセス等についても南海、JR、タクシーなどに働きかけるべきであり、地元市としても関空が良くなってもらわないとの意見交換がおこなわれました。

その後、現地視察として2期島LCCターミナルビル工事現場においては、関西国際空港(株)経営戦略室調査役 井上 貴文氏ならびに同計画技術部担当部長 奥田 豊氏により説明を受ける。また、1期島国際貨物地区、制限区域国際貨物&ピーチ使用スポットの視察を行った。

#### 総 括

時間的配分の厳しい日程の中、視察が実施されましたが、関西国際空港(株)の担当職員による説明に対し、各委員から活発な質疑が行われ、大変充実した視察であったと考えており、十分に所期の目的を達成することができたと考えております。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。なお、資料等については、別添のとおりです。

平成24年5月7日

空港等まちづくり対策特別委員会

委員長 木下 豊和



関西国際空港㈱ 伊藤 誠 専務取締役 より挨拶



木下 豊和委員長より挨拶



関西国際空港 2 期島 L C C ターミナルビル工事現場にて



L C C ターミナル工事現場



ピーチ peach Aviation



# 委員会行政視察報告書

委員会名	空港等まちづくり対策特別委員会
出席委員等	木下 豊和 委員長 大森 和夫 副委員長 河部 優 委員 中尾 広城 委員 小山 広明 委員 谷 外嗣 委員 北出 寧啓 委員 堀口 武視 委員 和気 信子(副議長)  【随員】藤原 秀紀(議会事務局)
実施年月日	平成24年4月18日(水)
視察先	鹿児島県霧島市
視察項目	鹿児島県霧島市まちづくり事業(企業誘致・観光)について 空港関連税収について
<b>視察結果</b>	
<p>最初に、鹿児島県霧島市議会事務局長 阿多 己清 氏より歓迎の挨拶及び市の概要の説明を受けるとともに、市の紹介ビデオを視聴する。</p> <p>なお、概要説明の中では、平成17年11月7日に、1市6町(国分市、溝辺町、横川町、牧園町、霧島町、隼人町、福山町)が合併し「霧島市」が発足した旨の説明を受ける。</p> <p>続いて、今回の視察案件である「まちづくり事業(企業誘致・観光)について」、概要説明を担当職員より受ける。</p> <p>(企業誘致)企業団地については、合併において各市町にあったものが、合併後の霧島市へ引き継がれている。</p> <p>担当者からは、「企業立地プロジェクト2011」の冊子に基づき細目にわたり説明を受ける。調査項目の「企業誘致優遇制度について」は、工業用地取得費補助金として、雇用者などにより限度額が決められている。また、雇用促進補助金として、最高5億円となっている。鹿児島県の優遇制度もある。霧島市においては、人口減少、雇用促進のため合併前の市町において企業誘致が考えられてきた経緯がある。なお、進出企業と地元企業との連携については、最近の開発事例として、「京セラ」・「ソニー」でフォークリフトを開発した事例がある。また、インキュベータールームについては、国分上野原テクノパーク内に22室あり入居中である。</p> <p>(観光)行政と市民と観光協会の協働について、平成22年度はNHKの大河ドラマの効果を最大限活かす準備の万端であったが、口蹄疫の問題から新燃岳噴火(平成23年1月26日)による風評被害のため、1月から3月までの宿泊客数は対前年同月比マイナス84,723人、霧島温泉旅館協会の速報値では2月がマイナス60%と5割を下回るまで落ち込む。</p> <p>「いざ霧島キャンペーン実行委員会」を発足、九州新幹線全線開業効果を高めるとともに新燃岳の風評被害を払拭するための取り組みを行っている。また、「霧島茶のおもてなしキャンペーン」を実施や指宿市とのタイアップ事業も展開している。PRの効果もあり新幹線の効果が感じられるようになる。空港利用促進については、平成24年4月1日鹿児島空港開港40周年記念イベントをはじめ、ピーチ航空(180席)鹿児島-関空(1日2便)をはじめ平成24年度鹿児島空港ビル内観光PRブース設置が検討されている。</p> <p>なお、鹿児島空港の利用(乗降客数)概況については、平成14年の6,247,995人を境に年々低下し、平成22年度中は4,967,625人とピーク時に比べ約2割減となっている。</p> <p>最後に、平成21年度～22年度において行われた「嘉例川駅周辺景観整備事業」についての説明を受けるとともに、併せて「魅力ある観光地づくり」事業の観光鹿児島サイン整備事業における道路案内標識例などについて詳細に説明を受ける。</p>	

質疑では、企業誘致の関係で、バブル期に計画されたものはないのか、また、国立公園等の規制はないのか、さらに、企業誘致関係予算は企業会計で行われているのかの問いに、今回の合併により、鹿児島県の工業団地が市内に2つ立地された状況となった。単価については、バブル期前の金額であり、特に、鹿児島臨空団地においては、坪当たり12万円と高く立地は進みにくい状況である。しかし、鹿児島県の方で1/2の補助制度があるが、それでも企業進出が進みにくいのが現実であるとのことでした。

また、特に、国立公園の規制での問題はないが、農地の規制等クリアしなければならないものがある。なお、企業誘致関係は、一般会計予算で計上を行っているとのことでした。

企業誘致の促進方法についてはどの様にされているのかとの問いに、色々な所にアンテナをはり情報を得たらすぐに動く方法を取り、平均2~3年をかけて交渉している。また、市長には、最終段階でお願いに行ってもらっている状況であるとのことでした。

さらに、地方交付税、補助金の金額が非常に多いが、どんな理由が考えられるのかとの問いに、合併し7年目であるが、多くの住民ニーズがあり、前からの予算枠を落とせない状況であり、合併特例債を多く発行し、それが交付税を押し上げているのが大きな要因の一つと考えられるとのことでした。(合併後10年間の支援制度あり)

京セラ(S47)、ソニー(S49)の企業誘致ができたのはどうしてかとの問いに、旧国分市(人口約5万)において、過去に人口3万人を切る時期があり、特に、企業誘致に力を入れ、昭和47年の空港開港などもあわさり、どうしても立地してほしいという熱意があり、そのおかげで企業誘致が実現できた経緯があったとのことでした。

貴市の特産品である霧島茶、たばこの栽培については、現在どうなっているのかとの問いに、お茶は溝辺、牧園、霧島地区での栽培が盛んで「平成22年度全国茶品評会」にて産地賞1位となる。しかし、たばこの栽培農家については16件から現在5件となっているとのことでした。(国の政策もあり)

合併後の影響についてはどうかとの問いに、いい面、悪い面があるが、本市においては、全庁的に、特に合併におけるいい面に力を入れてやってきているとのことでした。

午後より、霧島市観光協会・案内所の行政視察と嘉例川駅周辺景観整備事業の現地視察、鹿児島臨空団地の企業進出状況の現地視察を行った。

空港関連税収については、書面での対応。

## 総括

時間的配分の厳しい日程の中、視察が実施されましたが、霧島市において担当職員より詳細にわたり説明を受け、また各委員からも内容の濃い質疑が行われました。また、企業誘致・観光のまちづくりだけでなく、合併における状況等についても話を聞くことができました。

今回の視察については、大変充実した視察であったと確信しており、十分に所期の目的を達成することができたと思っております。今回の視察により得た内容については今後の市政に反映させ市の発展につなげていきたいと思っております。

上記のとおり報告いたします。なお、資料等については、別添のとおりです。

平成24年5月7日

空港等まちづくり対策特別委員会  
委員長 木下 豊和



鹿児島県霧島市議会事務局長 阿多 優 氏 より挨拶



木下 豊和委員長より挨拶



鹿児島県霧島市議会にて



嘉例川駅周辺景観整備事業





鹿児島臨空団地



議 長

# 委員会行政視察報告書

委 員 会 名	空港等まちづくり対策特別委員会
出席委員等	木下 豊和 委員長 大森 和夫 副委員長 河部 優 委員 中尾 広城 委員 小山 広明 委員 谷 外嗣 委員 北出 寧啓 委員 堀口 武視 委員 和気 信子(副議長)  【随員】藤原 秀紀(議会事務局)
実施年月日	平成24年4月18日(水)
視 察 先	社団法人 霧島市観光協会
視 察 項 目	鹿児島県霧島市まちづくり事業(観光協会の取組み)について

## 視 察 結 果

最初に、木下委員長より訪問における挨拶の後、社団法人霧島市観光協会の立山事務局次長より霧島市観光協会の取組みならびに観光案内所の現状について説明を受ける。

霧島市においては、平成17年11月7日に、1市6町(国分市、溝辺町、横川町、牧園町、霧島町、隼人町、福山町)が合併し「霧島市」が発足した。

霧島市観光協会は、旧霧島町、旧牧園町、旧国分市、旧隼人町にあったのを平成21年4月1日一本化し、合併後3年がたちました。3年たちほぼ落ち着いた形となってきている。

会長をトップとし、正副会長会をつくり主な事業のあり方、予算を決めている。下部組織として6つの専門委員会にて事業推進をおこなっている。

自己財源については、会費収入248名で6,000千円と事業負担金946千円である。また、霧島市より15,439千円(観光協会合併後3年間の金額)がある。

平成24年度は、九州新幹線が全線開業してから、2年目となる。昨年、全線開業前の1月26日から新燃岳の噴火活動が活発になり、霧島における入込客は一時激減したが、新幹線開業効果にも助けられ、秋には例年の入込客を越えるまで回復した。国内では、大阪線にLCCが就航し、国際線には台北線が新たに就航した鹿児島空港は、開港40周年を迎えることからこれを最大に活かすため、霧島市内の観光関係団体で組織する「いざ霧島キャンペーン実行委員会」の事務局を引き続き当協会に引受け、官民一体となった観光振興を図っている。

3月16日に霧島錦江湾国立公園が誕生し、新たな海の観光資源開発に向けて、霧島市等と検討を進める。当協会の事業としては、昨年、じゃらんリサーチセンターのアンケート調査で霧島が満足度全国一位となった。今後も、「おもてなし」を推進する事業を実施する。

また、霧島市内の各地域との連携による着地型、体験型の旅行商品を企画し販売する旅行業を開始する予定である。公益法人制度改革により、一般社団法人若しくは公益社団法人への移行が求められていることから、今後、その選択を行うとともに移行のための条件整備を行い、移行申請を実施するとのことでした。

質疑では、収支予算書の中に繰越金等がでてきていないが、資産等はないのか、新たな団体に移行した場合課税対象となると伺っているがどうかとの問いに、繰越金等は7百万円弱の金額があり、公益社団法人への移行の場合は、課税対象とならないとのことでした。また、役員報酬の金額はとの問いに、会長1名、副会長2名については、年額でわずかですが報酬がでているとのことでした。

個人会員を勧誘していないのかとの問いに、大半が関係業種の方で年間会費の最高額は18万円であるとのことでした。観光協会に入るとメリットがあるのかとの問いに、一番のメリットは

情報がいく点などかあるとのことでした。

観光協会の課題はないのかとの問いに、3年前に合併し、観光協会のない町があり意識の差があるのと、また、上場（霧島、牧園）・下場（海手）の地域格差があるものを広域的に合併の波及効果が出るようにするのが一つの課題であるとのことでした。また、逆に、合併して行政がやりやすくなっているが、地域に密着したものが消えていくことになり、地元からクレームが出てきているのも現状であり、広域的に波及効果が出ていない点と地域にきめ細かに対応できない点の両面のギャップがあるとのことでした。

#### 総 括

時間的配分の厳しい日程の中、視察が実施されましたが、霧島市観光協会において担当職員より詳細にわたり説明を受け、また各委員からも内容の濃い質疑が行われました。

今回の視察については、大変充実した視察であったと確信しており、十分に所期の目的を達成することができたと思っております。今回の視察により得た内容については今後の市政に反映させ市の発展につなげていきたいと思っております。

上記のとおり報告いたします。なお、資料等については、別添のとおりです。

平成24年5月7日

空港等まちづくり対策特別委員会

委員長 木下 豊和



木下 豊和委員長より挨拶



霧島市観光協会より説明を受ける

